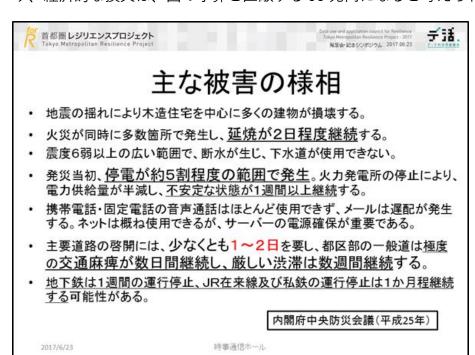


首都圏地震リスクにおける CSR から CSV の実現へ

防災科研首都圏レジリエンスセンター長/プロジェクト総括 平田直氏

平田氏は、熊本や神戸で起きたようなマグニチュード 7 規模の地震は、毎年 1~2回は日本のすぐ近くで起きていると説明しました。その上で、もし都市の近くで起きれば、非常に大きな災害になると指摘しました。内閣府の首都直下地震対策ワーキンググループによれば、首都直下地震による犠牲者は最大 2 万 3000 人にのぼり、経済的な損失は、国の予算と匹敵する 95 兆円になると考えられています。



平田氏はまた、防災科研が整備・運営している全国約800点からなるHi-netや、首都圏約300カ所の高精度地震計からなる首都圏地震観測網MeSo-netについて説明した上で「地震は地下で起きるのでなるべく地震に近い地下で観測したいが、災害は人の住んでいる地表、建物の中で発生するので、我々がこれから目指そうとしているのは、地下から地表、建物、人々への揺れの伝達。地下から構造物の揺れを研究し、そして、長い波長ではなく、短周期の波長まで揺れを正しく観測することだ」と語りました。

都内には、河川を埋め立てたような地域がたくさんあり、 $1\sim2$ km 違うと揺れは大きく異なるということです。Hi-net や MeSo-net の地震計の分布では、大震災が発生したときに、どこの被害が一番大きいか、どこに救援しなければならない人たちが大勢いるかということを判断するのに不十分といことです。平田氏は、「私たちが目指したいのは、首都圏の本当の揺れのデータから 100 万棟の揺れを即時把握し、地震規模を予測し、そして対策を講じること。そのために 3 つのサブプロジェクトを構成し、社会科学的な研究、理学的な研究、工学的な研究を進めたい。さら



に本日、お集まりいただいた方々とデ活協議会を運営し、これまで企業・団体が担 ってきた社会的責任(CSR)から共通価値の創造(CSV)に活動を進めていきたい」 と意気込みを話しました。

